

## 山崎勉 友の会新代表世話人インタビュー

本年5月に新しく友の会代表世話人に就任されました山崎勉氏にお話を伺いました。

## ▶ 先ず自己紹介からお願いいたします。

1948年新潟生まれです。1973年に世田谷で教員生活をスタートし、2010年東深沢中学校の校長として退職するまでの37年間、主に世田谷区内の中学校に英語科の教員として勤めました。趣味は音楽鑑賞、読書と美術鑑賞、それに趣味を超えています空手道の師範です。

## ▶ 世田谷美術館とのつながり、きっかけは何だったのでしょうか。

世田谷美術館の開館が1986年で、あの頃は、小中学生を団体で引率して世田谷美術館で美術鑑賞をさせていました。私も1、2回は連れてきました。今は、中学生は夏休みの課題として個人で鑑賞することになっていますが、その頃は中学校もやっていました。

## ▶ 世田谷美術館のどんなところに魅力を感じますか。

何よりもこの美術館の緑に囲まれた砧公園の中にあるというロケーションの良さですね。開館した頃、こんな素晴らしい美術館は少なかったです。当時トレンド女性雑誌の撮影隊とモデルさんがしょっちゅう来て写真を撮っていたのが印象的でした。大英博物館展では、入りきれないほどの多くの人々で混雑しました。私も並んで見ましたがすごい展覧会でした。私の印象では東京国立博物館のモナリザ展以来の混雑ぶりでした。

## ▶ 友の会世話人には、いつ、どんなきっかけでなられましたか。

世話人になったのは2013年で、きっかけは当時代表世話人だった鬼塚満壽彦先生に手伝ってくれと言われてなりました。鬼塚先生とは1988年に、世田谷区の教員のヨーロッパ視察でお知り合いになりました。鬼塚先生が団長で、教育プラス美術関係のいろいろな解説をしていたきました。少しは美術の世界に触れたかなと思いました。

## ▶ 友の会は先人が苦勞して築いてきた会ですが、今後さらなる発展に向けてお考えをお聞かせください。

2020年からのコロナ禍が友の会にも非常に影響を与えたと思っています。率直に言ってコロナ禍前は、友の会の活動は大変活発だったように思います。会員の親睦会や世話人会の忘年会などの懇親会を毎年行っていました。友の会の発展という意味で気がかりなのは会員数の

動向です。会員が多ければスケールメリットもでますし、活気もでます。コロナ禍前に会員増強に向けてアイデアをいろいろ出し合うこともやりましたが、コロナ禍で挫折してしまいました。そうした活動や検討もまたやれば良いですね。ただ、拙速は禁物です。できることとできないことを見極めながら、おいおいやっていくぐらいの気持ちで進めたらいいと思います。

## ▶ 世田谷美術館美術大学(34期)に入られたと伺いました。いかがでしたか。

2017年に鬼塚先生が講師の木口木版画講座を受講したことがあって、体験的な美術をやりたいなと思っていました。そこで清水の舞台から飛び降りる覚悟で美術大学に入学したわけです。受講生は年齢層もさまざまでしたが、あらためて人間の内面を表現することの素晴らしさとむずかしさを体感することができました。

## ▶ 友の会世話人のなり手が少ないという現状があります。どのようにお感じですか。

5月の友の会総会の時に会員から「事務費」とは何かという質問がありました。世話人が完全無償ボランティアであることや事務局があつて会費や会員の管理事務などの経費がかかることなど、知っている人は少ないでしょうね。いずれにしても楽しくやっている人の周りには人が集まると言います。ですから楽しくやっている姿をもっともっと知らせていく必要があると感じました。

## ▶ 最後に会員の皆さまにメッセージをお願いします。

世田谷美術館には、友の会の他に鑑賞リーダーというボランティアがいます。美術大学卒業生のグループ活動も活発です。世田谷美術館にはそうしたさまざまなファンの人たちが集い、支え合い、楽しんでいます。皆さま、これからも美術と美術館をこよなく愛し、楽しんでまいりましょう。

(友の会広報部)

友の会主催 解説・鑑賞会  
「横尾忠則 連画の河」展

解説：塚田美紀 学芸員

5月11日(日) 参加者60名

## 横尾忠則 画家の現在

吉田知和

展覧会「連画の河」は、50年以上前に横尾先生が同級生と一緒に撮った写真を起点に川や水にまつわる物語や絵画の画像など、複数の素材が次々に登場しては転換していくというテーマになっていました。

最初に見た時はなんでここでメキシカン？とか、なんで急に壺が？とか連画なのに唐突に前の画と関連が無さそうなモチーフが出てきて、正直戸惑いました。

学芸員の塚田さんは、展覧会企画時点から開催まで先生が作品を作り出していく間のエピソードを豊富に織り込みながら、連画の流れを明快に説明して下さいました。

特にシリーズの最後ということで寒山拾得を織り込んだ《EXTRA》を完成させた後で予定になかった《Self-Portrait》が描かれ、それも次に行った時にはさらに手を入れられていたので慌てて写真を手配したというところは実際に担当されていた学芸員でないといけない興味深いエピソードでした。

会員対象の解説・鑑賞会を今後も楽しみにしています。



## 友の会主催 解説・鑑賞会 「野町和嘉 —人間の大地」展

解説:野町和嘉(写真家)  
野田尚稔 学芸員

7月21日(月・祝) 参加者138名

### 「人類の歴史」の展覧会

滝花善和

大型プリントの展示から始まり、サハラ砂漠、チベット高原、エチオピア高地、アンデス山脈、メッカ巡礼地などの7つのセクションをゆつくりと鑑賞。「人間の大地」のテーマの通り、壮大な景色の中に人間の営みが存在しているからだと思うが、「今の世界」の写真だと感じながら感慨にふける。しかし、スタート地点に戻り改めて野町さんのコメントを読むと「既に失われている世界」なのだと思えることになる。

それからもう一度、それぞれの写真を鑑賞すると、この砂漠には今は集落があるのだろうか？ 牛の膾に息を吹き込むことはもうないのだろうか？ 100万人が餓死することはもうないのだろうか？ などこの写真の地点の現在を自分なりに想像しながらの鑑賞となった。そして、この展覧会は「人類の歴史」を写真で感じることができる展覧会なのだと思えた。

異教徒の立ち入りを頑なに拒むメッカとメディナから写真集を作りたいとの招待状が野町さんに届いたのも、歴史に残したいとの思いからなのだと思う。



野田尚稔 学芸員



野町和嘉氏

## 友の会主催 解説・鑑賞会 ミュージアム コレクション II

### 「もうひとつの物語 —女性美術家たちの100年」

解説:碓井麻史 学芸員

8月29日(金) 参加者31名

### 女性美術家たちの歩んだ道

世田谷美術館における収蔵作品のうち、女性作家は約130名、男性作家の約1,025名に対し圧倒的に少ないようです。しかも、作品数も限られており、女性作家の画風の変遷を辿ることは難しいとのこと。これは、戦前、女性にとって本格的に美術を学べる場が限られており、険しい道のりを歩いてきたからです。

碓井学芸員は、NHK朝ドラで取り上げられる女性の苦労や活躍に刺激を受け、女性美術家も同様な道を歩いてきたのではないかと、この展示を考えたそうです。不遇な時代に立ち向かう女性作家から、現代活躍を続ける女性作家まで、これまで語られることの少なかった視点での展示で、女性美術家たちのドラマが見えてくるようです。

今は、女性美術家の展示も増え、一般的にはなってきたようですが、まだまだマイノリティであることは事実です。解説をお聞きしながら、女性美術家の歩んだ道に思いを巡らし、これからどんな女性美術家が登場してくるのか楽しみになってきました。

(友の会広報部)



## 友の会主催 解説・鑑賞会 ミュージアム コレクション I

### 「世田谷でインド」

解説:伊藤まりん 学芸員

6月11日(水) 参加者33名

### 学芸員がインド

村田成康

この解説・鑑賞会で、NHK土曜ドラマで話題の学芸員の底力を知りました。横尾忠則企画展と時期を合わせた収蔵品展にインドを持ってきたのは、横尾の人物イメージがそのまま拡大して違和感が無く、つい一緒に見たくなる企画だったと思います。さらに「世田谷でインド」、大手広告代理店が考えそうなワクワク感があるタイトルがうまい。そこで、昨年の初インド旅行で感じた何かがあるかもと覗いてみることにしました。解説・鑑賞会もついでに参加。ところが、世田谷美術館を舐めていたようで、観覧料が安いからインド関連の作品を並べただけと想像していたのが、企画展以上の手間と準備が必要なのかも、の内容でした。

選んだ収蔵品をどう分類するか、展示の順番は、天井の高低差をどう生かすか、どこに壁を作って遠くからどう見せるか。7つの展示テーマの広がりからその苦労を感じ、学芸員が収蔵品を調べまくってまとめ上げた渾身の展覧会であることが理解できました。



## 水彩画講座

講師:板倉美智子

5月8日(木)~9日(金) 全2回 参加者19名

### 描きすぎず筆を止めるタイミング

佐鹿康夫

宮本三郎記念美術館での水彩講座に参加した。参加者は初心者からベテランまで幅広く、先生から初心者には絵の具や筆の使い方から、経験者にはそれぞれの力量に応じてキメ細かな指導を頂いた。

私は退職後に絵を描き始めたので大したキャリアがない分、このような機会は貴重である。一緒に描くことによって参加者間で交流でき、お互い新鮮な刺激を受けながらの楽しくも充実した2日間だった。

講座のなかで先生に私の最近作を数点見ていただいた。説明的に「描きすぎないように」との指導を受けた。私の場合撮ってきた写真を見ながら描くことが多く、写っているものを全部キッチリ描き込んでしまう傾向がある。構想の段階から計画的にテーマを絞って省略やデフォルメすれば、もっとスッキリした透明水彩らしい絵になるはずだ。また、「筆を置くタイミング」「止めどき」「手数を減らす」の意味も同時に考えてみたい。絵を見る人の感性に委ねる部分を残すことも必要のようだ。

今回の講座に参加して私の課題を再認識した。来年の講座に向けて、この課題に挑戦する楽しさと意欲が湧いてきた。



## 木彫刻講座

講師：三宅一樹

6月6日～7月25日(金) 全8回 参加者22名

### 木彫刻は地球に愛着が湧く

櫻井智香

木曽檜の角材にノコギリを引くと良い香りが立つ。一木に宿る悠久の時間に思いを馳せる。目を閉じれば工作室は木曽の山々。年輪に季節の移ろいを見、砥石に地殻変動を、ノミには先人たちの知恵とたたら製鉄の熱を感じ、すべては、三宅先生の講義の熱量が導いてくださった木彫刻の世界の広がりである。

このままで十分に美しい檜材と向き合いながら、恐る恐るノミを刻む。美しいものを生み出せるよう、セツに祈りながら。

「迷いのある曖昧なものは彫れません」—先生の言葉が今も胸に響く。

鮮明な一本の線を、面を、捉える眼と技を得たい。講座を終え、未完成の自分の手と向き合う今、木彫刻講座ロスの真ただ中である。これからも、精進したい。



## 思い出の美術館

### 国宝土偶に会いに行く！

高橋敏彦

国宝の土偶5体を鑑賞しようとなぜか？ 思い立ち、2年前、函館市縄文文化交流センターに展示されている中空土偶を皮切りに、昨年、長野の尖石縄文考古館「仮面の女神」・「縄文のビーナス」、青森県八戸市の是川縄文館の「合掌土偶」を鑑賞してきました。

いずれも縄文時代の生活や文化や精神性など当時の背景が想像できる素敵な土偶で、中でも函館市縄文文化交流センター(道の駅に併設されている博物館に国宝が有りびっくり!)で展示されている中空土偶は平日の雨の午前中ということもありとてもゆっくり鑑賞でき土偶の構造から何の穴？とかこの模様は何？とかこの大きさは何基準？とか北海道・北東北の縄文遺跡群の一端を垣間見、諸説ありますが土偶の製作時代3,500年～4,000年前の生活背景を想像したり縄文人に想いを馳せ縄文時代を創造できる空間と時間を持つことができお気に入りの展示会場でした。

残るは山形の「縄文の女神」ですが、今年のうちにお会いできればいいなと思っています。

函館市縄文文化交流センター  
国宝「中空土偶」



## 水墨画講座

講師：佐藤良助

5月14日～30日(水、金) 全6回 参加者22名

### 水墨画講座に参加して

伊藤柴穂子

水墨画に興味を持ち、友の会のお墨画講座に早速申し込みました。講座の始まる前に上野で行われていた相国寺展へ仲間と行き、雪舟や伊藤若冲の絵画を堪能して参りました。

そのイメージを元にいざ講座がやや緊張のなか始めると、講師の佐藤先生から今年のテーマは引き算の絵画というお話から始まり、早速、竹が描かれたプリントが配られました。経験のある方は次々と模写やご自分の思う絵を描き進める中で、新人の私は硯ですった濃墨と豆皿に入れた水で淡くした墨とを扱い、竹の幹、竹の葉を見よう見まねで描きますが思う様な線を描くことはできませんでした。

墨の濃淡の加減、そして筆の扱い方、まずはそれに慣れるため何度も描き続けました。時折、先生が中央のお席で描き方を筆で説明される時は、皆が周りを囲み拝見しますが、見ると行うは大違いでした。次第に墨に慣れてくると水描きした上に濃い墨を乗せることで生まれるにじみの表現の面白さをたらしこみと言うと教えて頂き、正に水墨画ならではの楽しさを感じてきました。蛍袋の絵が配られると、「花の袋の中に本当に蛍が入るんだよ」と言う先生のお話を聞き、その情景を思い描きながら描く楽しさも次第に味わえる様になってきました。

先生が肩の力を抜いて鼻歌まじりでやっていいんだよと冗談を交え教えてくださり、その中で、水墨画の扉を開いて楽しむ入口に立つ体験をさせて頂いたこと、本当に感謝しております。



### これからの事業について

- ◎ 会員作品展 11月5日(水)～9日(日)
- ◎ 美術講座 12月6日(土)  
世田谷美術館館長 橋本善八
- ◎ デッサン講座 1月14日(水)～2月25日(水) 隔週全4回
- ◎ 油彩講座 1月16日(金)～3月6日(金) 全8回
- ◎ 解説・鑑賞会 企画展・ミュージアムコレクション展ごとに予定

\* 2025年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

### 世田谷美術館友の会に入会しませんか！

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

### お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607  
[https:// setabi-tomonokai.jp/](https://setabi-tomonokai.jp/)

